

今回は、株式会社ケアサービスを分析しました。昭和45年に寝たきりの方のふとん消毒乾燥サービスの会社として創立された会社です。現在は居宅介護支援サービスやディサービスから、サービス付き高齢者向け住宅や葬儀用湯灌（ゆかん）サービスにも進出しています。



企業力総合評価は、青信号領域を上昇。2010年に大きく改善しました。総合評価をここまで動かしたのは営業効率、資本効率、安全性だと考えられます。(赤い○の部分)

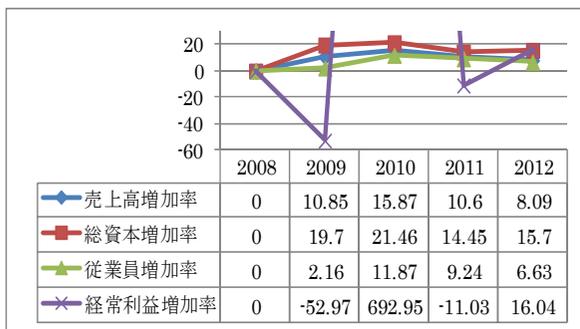
営業効率（儲かるか）は、売上に対していくら利益が残ったかを表します。
資本効率（資本の利用度）は、投下資本に対していくら儲けたかを示します。

生産効率（人の利用度）も4期連続の改善トレンドですが、労働集約的な事業ですので、1人当り売上高は厳しいものがあり、低い数値になっています。

資産効率（資産の利用度）は、悪化トレンドです。投資をして資産が膨らんでいるのでしょう。でも営業効率が改善しているので問題ありません。投資が成功していると考えてよいでしょう。

流動性（短期資金繰）は、上下しながら若干の悪化トレンドですが、短期資金繰りが悪いとまでは言いきれません。変動が大きいのは、ジャスダック上場の会社であるため財務が不安定であると考えられます。

安全性（長期資金繰）は大きく動いて改善トレンドです。投資が活発で、それにより高い利益を獲得したので、そのまま数値に表れていると考えられます。
内訳（右表）を見ると、総資本増加率 > 売上増加率 > 従業員増加率です。投資をして総資産が増えると同時に、人を増やして売上も上がった結果です。経常利益増加率は、2010年大きく変動してグラフからはみ出しました。



介護サービス事業とエンゼルケアサービス事業に分けてみると、2012年で、売上高は介護サービスがエンゼルケアサービスの3.7倍、しかし売上総利益率は逆に、エンゼルケアサービスが介護サービスの2.2倍です。

エンゼルケアサービス事業とは、冠婚葬祭業の互助会及び葬儀社と契約を結び、主に湯灌サービス、CDCサービスを提供するものです。

① 湯灌サービスとは

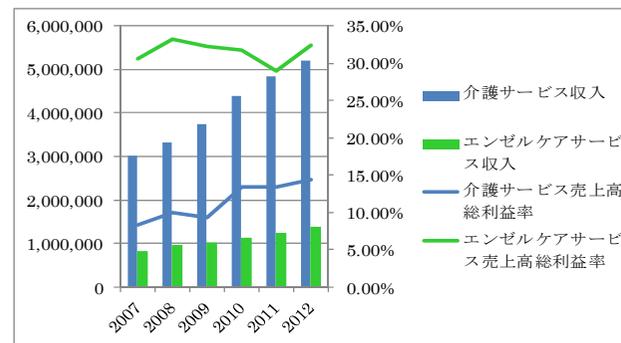
故人の葬儀においてお通夜の前に故人の洗体を行い、化粧をし、旅支度を整えるサービス。御葬家の御自宅又は葬祭場に湯灌車と呼ばれる特殊車両でお伺いするサービス。

② CDCサービスとは

Cosmetic（化粧）、Dressing（装束）、Coffin（納棺）の略称で、主に故人のお化粧と旅路の身支度を整えるサービス。

本来、これは葬儀事業者の事業領域ですが、介護事業を営むケアサービスが進出しています。介護していたお年寄りがなくなり、故人を美しく送りたいと考えれば、そのためのノウハウ(体の悪い方のお風呂設備や、どうやって入浴をするか等)は葬儀事業者よりあるかも知れません。

		単位: 千円・%					
		2007	2008	2009	2010	2011	2012
介護サービス	収入	3,017,250	3,325,742	3,739,056	4,378,910	4,839,695	5,191,202
	原価	2,766,208	2,996,462	3,391,861	3,795,536	4,187,633	4,446,276
	売上総利益	251,042	329,280	347,195	583,374	652,062	744,926
	売上高総利益率	8.32%	9.90%	9.29%	13.32%	13.47%	14.35%
エンゼルケア	収入	824,038	960,650	1,012,196	1,126,329	1,249,131	1,389,990
	原価	571,747	642,225	685,427	768,320	887,058	939,042
	売上総利益	252,291	318,425	326,769	358,009	362,073	450,948
	売上高総利益率	30.62%	33.15%	32.28%	31.79%	28.99%	32.44%
合計	収入	3,841,288	4,286,392	4,751,252	5,505,239	6,088,826	6,581,192
	原価	3,337,955	3,638,687	4,077,288	4,563,856	5,074,691	5,385,318
	売上総利益	503,333	647,705	673,964	941,383	1,014,135	1,195,874
	売上高総利益率	13.10%	15.11%	14.18%	17.10%	16.66%	18.17%



まとめ 葬儀業の領域に異業種から参入して躍進しています。同業種だけでなく、異業種の動向を見ることで、自社が取り組むべきことに気付かされることがあります。何ができるか、いつも考え続けなければいけません。